

週報

こひつじ

第41巻 37号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

主を拝み、主にだけ仕えなさい

その三 内面が変わる

のちの救世軍中将山室軍平は、ちに、こう決意する。

少年の頃、貧しい印刷工にすぎなかったが、彼には、ひそかな野心があつて、そのために夜間学校に通い、法律や経済を勉強していた。そんなある日、路傍説教を通して彼は初めてキリスト教にふれるのである。

こうしてのちの偉大な伝道者山室軍平が生まれたのである。

すると読み始めた聖書に、キリストのことが「ユダヤ人の王」と書いてある。不思議に思い、その意味は何かと問うと、

「精神上の王者という意味だ」という返事だった。

物質的世界のほかに、精神的王国があることに驚いた軍平はただ

通に持つ体験だ。繰り返すようだが、何に心をひ

かれ、憧れ、感動するか。それが、その人がどんな人かを決定するのである。

文明や社会についても同じことが言えるのではないか。

明治になって岩倉使節団がイギリスを訪ねたとき、彼らは都市工業の景観に驚嘆し、それらについての多くの記述を残したが、彼らが車窓から眼にしたに違いないイギリスの美しい田園風景についてはほとんど何も書き残していない。なぜか。

美しい農村風景なら、当時の日本にはありあまるほどあり、とくに目をひくようなものではなかったからだという。

彼らはイギリスの技術文明に圧倒されても、自然の美しさに感動することはなかった。

その結果、明治以降、西洋文明を取り入れ、急速な発展をとげた日本において、自然破壊は他のどの国よりも進んでしまったと、ある人が書いていた。

何を美しいと感じるか。これが未来を決めるのである。

妻は、週に一度、ある病院のホ

スピスでボランティア活動をやっている。

患者のための集会で、あるとき病棟の責任者であるシスターが、「あなたがたは心を騒がせてはなりません」

という聖書の言葉から短い勧めをした。

話が終わると、ひとりの男性患者が言った。

「私の心は、少しも騒いでいません。というのは、自分がこれからゆく天国がどんな所か、私にはよくわかってからです」

そこでシスターは尋ねた。

「では、家族に何か伝えておきたいことはありませんか」

男性は答えた。

「天国にいる私と、コミュニケーションができるような、そんな感性を家族にはぜひとも養ってもらいたいと思います」

「どうやったら、それができるでしょうね」

シスターの再度の質問に、男性は、こう答えたそうだ。

「美しいものを見て、美しいなあと感じてくれることです。いつま

でも驚きの心を失わないでいてもいい。自然にふれ、人生を見つめ、なんて不思議なんだろうと感じる心があれば、きっと天国にいる私とも感動を共有できるでしょう」

私たちはどうだろうか。今もなお、悪魔がイエスに見せた国々の権力と栄光とに圧倒され、それにひれ伏すような人間のままだろうか。それとも、神がお造りになった自然の素朴な美しさや、人生の不思議さに、心を動かされる人間に変えられているだろうか。

内面の、このような変化にこそ、神の子としての特徴があるように思われるのだが、いかがだろう。

(終)

今日の礼拝

- 礼拝は午前一〇時半から。
- 教会学校は午前一〇時半から。
- 説教は長岡舞子さん。
- 礼拝後、昼食交わり会。

駐車場の清掃

先日、篠忠重さんが、暑い日差しの中で矢島宅駐車場の草刈りをしてくださいました。刈り取られた草が数カ所に集められています。集めてごみ収集袋(赤い袋)に入りたいと思います。今日の礼拝後、皆さんでやっていただければ早く終わります。手袋もごみ収集袋も準備されています。ご協力いただければ感謝です。

次週(九月二十八日)の礼拝

- 礼拝、教会学校はともに午前一〇時半から。
- 説教は米村牧師。

先週の礼拝報告

○司会は岩崎宏志さん。

○インドネシアから来て、セブンフーズで働いているリッキーさんが賛美と自己紹介をしてくださいました。インドネシアはイスラム教の盛んな国ですが、リッキーさんは、子どもの頃から熱心なクリスチャンでした。日本語も上手です。

○説教は坂田壮一さんのはずです。

牧師身辺

七章から、「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも私たちはなおほかの方を待つべきでしょうか」という、バプテスマのヨハネの問いについて語りました。だれを待つかは重要な問いです。しかし、イエスのほかに私たちの人生を正しく導いてくださる方がいるでしょうか。迷わず、疑わず、イエスを見つめつつ、そのあとについてゆきたいものだと思います。

説教者日程

○猿渡陽子さんのお母様が天に召されたことはご存じの通りです。礼拝に来られた陽子さんがその報告をしてくださいました。突然のことでしたので、まだまだ、心の痛みがあるかと思います。主の慰めが陽子さんをはじめ、ご家族の皆さんにあるように、会衆とともに祈りました。

○礼拝参加者は八四名(男二八、女五六)、それに子どもが八名、合わせて九二名でした。

○新来会者は、スーザンさん。石山夫妻がアメリカ滞在中に通っておられた教会のメンバーの方です。

牧師のメールアドレス

yonemura@ja2.so-net.ne.jp